

H27年度 第1回安芸地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：8月27日（木）13:30～16:00

場所：安芸総合庁舎2階大会議室

1 議事等

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

- ・H27年度のスケジュールを説明

（2）地域アクションプランについて

1）市町村・住民の方々との意見交換の概要について

- ・各市町村での意見交換の概要について説明

2）安芸地域アクションプランの3年半の取り組みの総括について

- ・全34項目について説明

2 意見交換

<産業振興計画関連 年間スケジュールについて>

- ・特になし

<地域アクションプランについて>

○市町村・住民の方々との意見交換の概要について

- ・特になし

○3年半の取り組みの総括について

- ・(No.1 ナス産地におけるまとまりづくりとブランド化の推進)「土佐鷹」については、これまで販売促進のためにブランド化を進めたり、多品目を目指す取り組みをしてきて、一定の評価もされている中で、園芸連が「高知ナス」に統括するという事は、その取り組みに反している気がする。ブランド化についての今後の取り組みの方向性を考えていただきたい。

→県としては、10年以上推進してきたものなので残念ではあるが、生産者及び基幹流通を担う園芸連が決めた結果なので、その効果も見極め、農家からのご意見もいただいたうえで、安芸地域のナスをどうしていくかということを変更して再検討していきたい。

- ・(No.9 芸東地域の水産物の付加価値の向上と販路の拡大) 近海マグロの水揚げをすることにより、地域の経済効果につなげたいので、そういった位置づけを検討いただきたい。

→水揚げしたら高く売れる仕組みをいかに作るかが大きな課題である。昨年度から、キンメダイだけのアクションプランから水産物全般の取り組みに変えたので、その中でいろいろな方策を探っていきたい。

- ・(No.16 キラメッセ室戸「楽市」の機能強化) 楽市がB評価となったことについて、入場者数を目標に掲げたためだと思うが、販売額としては伸びているので、評価の仕方について検討いただきたい。

→キラメッセは駐車場の問題もあり店頭販売では限界がある。また天候の影響も受けるため来場者数で見るとそういう評価になった。店で一番大事なのは売上で、それはクリアしており、地産外商を進めて売上を安定して伸ばしていくのは、地域経済にとって一番大事な部分なので、決して取り組み全体の評価がBというものではない。指標の設定が悪かったと思う。

・(No.11 海洋深層水の利用拡大) 室戸市や県にも力を入れていただいたが、現在は低迷している。全国レベルで海洋深層水を活用できるような取り組みを検討していただきたい。

→海洋深層水については商工業分野の成長戦略の中にもあり、現在は深層水企業クラブや関係団体との意見を交えながら次の戦略を練っている。深層水自体が大きな産業であり、地域にとっても基幹産業であることは間違いないので、県庁全体で取り組んでいく。

・(No.6 土佐備長炭の生産、出荷体制の強化) 支援をいただき新規の窯が増えたが、伐り手の確保ができず、窯が増えるたびに生産量が減っている。まず伐り手の育成に力を入れて、それに合わせた窯を作るという支援の仕方が大事である。

→伐り手を安定的に確保するため、伐り手の収入を安定させることが課題である。雑木の中でカシだけを伐るのは生産性が悪いため、全て生産組合が買い取り、カシ以外は薪として売っていく方針としているが、流通の部分がまだ弱いので、県の補助金も投入しながら取り組んでいく。

・目標値の設定について、誰がどのように決めているのか。

→計画を作る段階で、事業主体となる方等と話し合いながら作っているはずであるが、必ずしも適切な目標ばかりでもない。これから3期の計画を作るにあたっては、その部分もきちんと整理していく。

・新商品開発の際の工業技術センターでの検査料が高いので支援制度があればいい。お酒については手厚い支援があるが、食品に関しては難しい。

→工業技術センターの役割は重要で、いろいろな形で支援はしているが、全ての分野に行き届いていないこともあると思うので、ご意見を踏まえて検討をしたい。

<東部博について>

・博覧会終了後の対策はどのように考えられているか。広域観光への取り組みについてはどのようなになっているか。

→27年度よりも数字が確実に減る28年度の実績を、いかに高止まりさせるかが大事である。体験メニューについてもブラッシュアップして続けてほしい。来年度以降は新しい観光組織を法人化し、旅行業免許を取り旅行商品を売るということを9市町村が一緒にやるのが大事である。県としても人的支援も含めて市町村と連携し広域的に取り組む。

・観光客がモネやジオパークセンターに来たら次の施設に行きたくなる仕組みや、リピートしていただくために、満足しているか把握、検討する仕組みが必要である。

→エリアを分けて東部地域全体の人にそれぞれの施設を案内して、実際に体験してもらう取り組みもしているので、今後も進める方向で検討していきたい。

→観光については、総合戦略の基本目標の「人の流れをつくる」に位置づけている市町村は多いが、交流人口の入口にする意識はあっても、そこからお金を落としてもらうところまで思いが来っていない。産業として成り立たせるために、広域組織で取り組んでいきたい。

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域産業担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp